

## 日本臨床発達心理士会千葉支部 2025 年度第 2 回資格更新研修会のお知らせ

**日時** 2026 年 1 月 11 日(日) 13 時 00 分～16 時 20 分 (12 時 30 分受付開始)

**会場** 千葉大学西千葉キャンパス 教育学部 1 号館 1 階大会議室。対面形式で実施。

千葉市稲毛区弥生町 1-33 JR 西千葉駅または京成みどり台駅より徒歩。

(車の乗り入れはできません)

千葉支部会員向け研修会(他支部からの参加はできません)

研修ポイント 1 ポイント(申請予定) 参加費 500 円

**テーマ** 新版 K 式発達検査 2020 の理解と事例検討：より深い解釈と支援を目指して

**講師** 清水 里美 先生 (大阪常磐会大学 こども教育学部)

京都市心理職(児童相談所心理判定員など)、京都市退職後、京都府・京都市教育委員会スクールカウンセラー、平安女学院大学学生相談室カウンセラー、2011 年度より平安女学院大学短期大学部准教授、平安女学院大学子ども教育学部教授を経て、2024 年 4 月より現職

現在 大阪常磐会大学 こども教育学部 教授

公認心理師、臨床心理士、特別支援教育士スーパーバイザー

### 要旨

子どもの発達アセスメントに活用されている新版 K 式発達検査の前身は、K 式発達検査です。K 式発達検査は、日本の子どもたちの発達を評価し、支援に役立てることを目的として、第二次世界大戦前から京都市児童院で研究されていました。その後、公式に手続きを定め、新たに標準化作業をおこない、新版 K 式発達検査として、1980 年に京都国際社会福祉センターから公刊されました。それ以来、20 年ごとに改訂、標準化がなされています。

本研修会では、新版 K 式発達検査の構成、最新版である 2020 年版における変更点とその背景などについてご紹介いただくとともに、提供事例をもとに臨床発達心理士の臨床活用に関わる実践的な内容を参加者で共有したいと考えています。

### 注意事項

○この研修会は、すでに新版 K 式発達検査を使っている方向けの内容となるため、検査を知らない方には難しい内容となると思われます。

○検査の実施手引書を各自でご持参ください。

○検査の詳細な実施手順を説明した資料は配布されません。

#### 参加方法等

◆千葉支部会員向け研修会(千葉支部準会員も参加可)。他支部からの参加はできません。

定員 80 名。事前参加申込が必要です。

申込受付期間 11 月 16 日(日)より 12 月 21 日(日)まで。

定員になりしだい締め切りとなります。

千葉支部メールアドレスに氏名、会員番号(8 桁)を明記してメールで申し込んでください。

jacdpchiba@yahoo.co.jp

◆研修会資料は当日配布します。

◆参加費(500 円)は、研修会当日受付でお支払いください。

◆(注意)2025 年度の会費が未納の方は参加できません。まだの方は会費を納入してから研修会の申込をしてください。

千葉支部 2025 年度 第 2 回資格更新研修会 報告

2026 年 1 月 11 日(日)13 時～16 時 20 分

対面による研修会 参加者 44 名

## 新版 K 式発達検査 2020 の理解と事例検討～より深い解釈と支援を目指して

### 【講師】

清水里美先生（大阪常磐会大学こども教育学部・教授）

今回の研修では、新版 K 式発達検査 2020 の改訂ポイントと解釈ついて学びました。

研修会前半では、新版 K 式発達検査の概要と特徴について、講師の清水先生からご講話いただきました。発達検査を通じて、子どもがどこまでわかっているのか、何がわかりにくいのか等を観察し、具体的支援に役立てていくことを確認しました。大きなポイントは3つであり、①生活年齢と発達年齢の関連、②発達の個人内差、③感覚の過敏さや興味の偏りです。また検査結果を解釈する際には、知能以外の属性も考慮に入れることも重要となります。

続いて、2020 年版の改訂のポイントについて説明がありました。とくに他者認識の発達を捉える検査項目が新たに設定され、その意義についての解説がありました。

研修会後半では、参加者がグループに分かれて仮想事例を用いた事例検討を行いました。検査結果から見立てを行い、さらに具体的支援の手立てについて検討しました。活発な議論がなされ、たいへん充実したグループワークとなりました。

最後に、発達検査の検査課題が通過できるようにすることが支援対象者の目標ではなく、その人に合った有用な方法や表現の仕方を見出していくことの重要性について確認し、研修を終えました。

（報告 實川慎子）